



### 3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

平成29年度 地域と連携した学習プログラム  
 広島市立大林小学校  
 校長 石田 寛治

時期	平成28年度 地域と連携した学習プログラム 具 体 的 な 取 り 組 み				
	ホタルプロジェクト ホタル飼育活動・環境保全活動等	麦・こんにゃくの栽培 H27年度作付けした麦の栽培	伝統文化・地域起こし	読書活動・地域行事	
4月				本の読み聞かせ (年間を通じて)	
5月	 稚アユの放流 5/23 ホタル(成虫)の観察・採卵 5/27~	 コンニャクイモの植え付け 5/23		 ホタルを題材にした 紙芝居上演(5年生) ※前年度作成	
6月	 ホタルかごづくり(5~6年) 5/30	 麦茶づくり(1~3年生) 風鈴づくり(4年生)	 「ホタルの夕べ」の実施 6/11		
7月		 大麦の刈り入れ(2・3年)	 熊谷踊り練習(全児童) 7/12	 盆踊り(熊谷踊り)参加	
8月				 カヌー体験(5・6年) 9/7 大林小学区民運動会(全学年) 9/27	
9月	 下水道教室(4年生)			 敬老会参加(5・6年) 9/21	
10月	 地域清掃活動(全学年) なかよし班(縦割り)による飼育活動の開始 10/21 虫取り(2・3年生)				
11月	 ホタルについての報告会(3・4年生) (大林学習発表会)	 麦畑の整備 麦の種まき(1・2年生)	 コンニャクイモの堀上げ		
12月	 小川へ幼虫の放流(3年生)				
1月	 ホタルの幼虫の観察会		 コンニャクづくり(6年生) もちつき大会 1/22		
2月			 昔遊び体験(12年生) 大林まち探検(3年生)		
3月	 ビオトープに幼虫を放虫		 茶道体験(6年)		
協力者 ※数省略	ホタルプロジェクト支援員 【ホタルかごづくり】 ・室中 英寿子・佐々木 昭江 ・斎藤 倫寛 【ホタル採集】 ・川原 一郎・杉田 幸明 ・松本 洋一・島原 雅英 【ビオトープの管理】 ・久保 明(豊林会)	【麦の栽培・管理】 ・室中 英寿子 【コニャクイモの栽培・管理】 ・谷中正光 【コニャクづくり】 ・谷中正光・藤川 義重 ・谷中 義重 【風鈴の彩色】 ・岸副 かつり	伝統文化支援員 【茶道の指導】 ・室中 英寿子 【もちつきの指導】 ・藤川 義重 ・谷中正光(悦寿会) 【昔遊びの指導】 ・藤川 義重 【地域おこし支援】 ・坊 剛彦	運動体験支援員 【カヌーの指導】 ・池田 憲治 ※【バレーボール指導】 ・東 穂 洋子	読書活動支援員 【本の読み聞かせ】 ・川原 昭子 ・坂本 健恵 ・大下 麗子 ・市河 美穂子 ・志保 菜穂子

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）

=====  
持続可能な開発のための教育の推進  
ー地域と共に育てる社会形成能力ー

広島市立大林小学校  
校長 石田 寛 治

=====

1 はじめに

本校では、社会形成能力の育成をESD（持続可能な開発のための教育）の取組として位置づけている。地域の自然保護に関わる学びを中心課題として取り組みながら、地域社会と連携を図り、全ての児童が郷土を愛し文化や伝統を継承しながら豊かな社会を築く力を育てている。

この取組を本校では「ホタルプロジェクト」と名付け、年々実践を積み重ねてきた。平成22年にユネスコスクールに認定されている。

2 学区・学校の概要

本校は、広島市安佐北区の北端にあり、学区は上根峠を境に安芸高田市と隣接する。周りを山々に囲まれ、北の上根峠から根谷川が流れ下り、南に可部、そして広島市の市街地へとつながる扇状地の始まりに位置する。

学区には、鎌倉・室町時代の熊谷氏の居城であった伊勢が坪城跡（県指定史跡）があり、自然に恵まれた古い歴史のある土地柄である。

児童数は、88名、(H28年度)で全7学級（特別支援学級1）の小規模校である。

3 ESDの中心である「ホタルプロジェクト」の取組

○ねらい

豊かな自然環境を活かし、地域社会と連携しながら郷土の文化や伝統を学び維持継承していく活動を通して、郷土を愛する心情を育て、持続可能な開発のための教育(ESD)に結び付け、未来に渡って豊かで平和な社会を構築できる課題解決能力を、協同し対話するプロジェクト型の学びによって育てることをねらっている。

4 取組の概要

ホタルの幼虫の飼育から放流、そして、成虫の観察、採卵という循環する活動を通して、その生態や地域の自然環境保全について自らの問題として考え、課題解決に取り組む学習活動を中心に行っている。以下は、年間の取組である。

(◎印は、地域、保護者、ゲストティーチャー参加)

4月 大麦の栽培(昨年度からの継続)

5月 紙芝居の上演(5年生→1年生)

ホタルについての学習(1・2年生)

◎根の谷川へアユの放流(5/23)

◎コンニャクイモの植え付け(5/23)

ホタルの観察・産卵(5/27)採卵開始

◎ホタルかごづくり(5/30)56年生

◎風鈴づくり(5/31)4年生

- 6月 麦茶づくり 1～3年生(6/2)  
 大麦の刈り入れ 2～3年生  
 ◎ホタルの夕べ開催(6/11)  
 ホタルの幼虫の飼育開始 3・4年生
- 7月 科学研究(希望者)
- 9月 根の谷川の水質検査 5年生  
 根の谷川の生き物を探そう 12年生(9/6)
- 10月 下水道教室(10/4) 4年生  
 地域清掃活動(10/11)  
 虫取り(10/13) 2年生・3年生  
 幼虫飼育の引き継ぎ(なかよし班)(10/25)  
 (以後、なかよし班によるホタルの世話)
- 11月 幼虫の飼育活動  
 ◎コンニャクイモの堀上げ 6年生
- 12月 大麦の種まき 1～2年生(12/6)  
 ◎谷川へ幼虫を放流 3年生(12/20)  
 ◎ホタルを増やすためにできること 4年生
- 1月 ホタルの幼虫観察会  
 ◎コンニャクづくり(1/16) 6年生  
 ◎もちつき大会(1/22)  
 麦ふみ: 1・2年生
- 2月 ビオトープへ幼虫の放流  
 ◎大林散策コース巡り 3年生
- 3月 ◎大林散策コーススタンプラリー

## 5 主な取組について

### ◎ホタルの幼虫飼育と放流

ホタルの幼虫飼育は、採卵からしばらくは3・4年生が担当し、11月ころから放流まで、なかよし班(1年生から6年生までの縦割り班)が順番に当番となって飼育活動を行う。



(飼育活動)



(採卵のための飼育箱)

6月上旬の「ホタルの夕べ」と名付けた発表会では、1年間に学んだことの発表や会に来校された地域・保護者の方をもてなす用意をする。学年で分担し、地域の方をゲストティーチャーに大麦の茎で作るホタルかごの作成や学区にある



ガラス工場関連の素材での風鈴づくり、前年度にとれた大麦を使った麦茶づくり、ホタルの絵を配したうちわづくりを行うことが主な取組になっている。

◎根の谷川へアユの放流 全学年

地域の自然環境理解と保全を考える機会として大林自治連合会や太田川漁協のご協力を得て、アユの稚魚を全児童で根の谷川へ放流した。地元を流れる清流が豊かな恵みをもたらすことを願い、また、そのために環境を守ることを心に刻みながらの活動となった。



(全校児童でのアユの放流)

◎コンニャクイモの栽培

自然環境の恵みである農作物の栽培として6年生は地域の方と共にコンニャク栽培からコンニャクづくりを行い、冬に行われるもちつき大会で作られる豚汁の材料として活用することができた。



◎お話作りと読み聞かせ

※「ヤクソク」と題したホタルのお話

前年度(H27)に制作したオリジナルストーリーを現5年生が4年生時に大型紙芝居にした。これを1年生に読み聞かせ、ホタルや自然を大切にしていかなければならないと、1年生に伝えた。5年生にとって制作した紙芝居を発表する場やこれからも継続してホタルの飼育に取り組む気持ちを高める機会とすることができた。



◎小川への幼虫の放流（3年生）

3年生が育てていたホタルの幼虫を、来年の夏に羽化することを願って地域の小川に放流をした。平成26年8月20日未明に広島市をおそった豪雨により大林地域の多くの谷川では土砂が流出し、それ以後、少しずつ回復してきているものの、生き物の住める環境は大きく損なわれている。ホタルの飛び交う故郷を願い、3年生が地域の人と選んだこの場所に幼虫を放流した。



◎ホタルを増やすためにできること 4年生

（自主課題を設定し、課題解決学習）

※H28年度は看板づくりに取り組んだ。

○自主制作絵本づくり



昨年度末から制作を始めていた紙芝居から、本年度は教職員の協力の下、絵本の制作を行い、1月に完成させることができた。

○地域清掃活動 全学年

◎大林地域散策コース巡り 3年生

年間に実施した活動は、大林社会福祉協議会や長寿会の方々などの地域の方々に支援をしていただき、共に活動を行った。

## 6 成果と課題

「故郷『大林』をホタルの飛び交う自然豊かな町として大切にしよう。」「そのために、私たちは何ができるか、何をするか。」と考え、ホタルプロジェクトの学習活動が展開される。児童の実態に即し、自分で見いだした課題を自分なりに考えたり、グループでまとめたりしながら、一つの目標に向かって学校の児童全体が取り組むことのできるテーマであった。学年や児童の発達段階に応じて課題を設定することができ、その課題を様々な手立てで解決し、自分たちなりの結論を導いてまとめに達することができる。

「ホタルプロジェクト」は、ホタルの羽化時期を選んで行われる6月始めの「ホタルの夕べ」が活動の一つのまとめの場となる。同時に採卵や幼虫の飼育活動も始まる。また、大麦栽培は、11月頃に播種し、6月頃に刈り取り、その後乾燥、脱穀と続き、前年度収穫した大麦の茎でホタルかごを作ること、大麦でホタルの夕べの来場者に配る麦茶づくりを行う。コンニャクイモ栽培は、1月末のもちつき大会で作られる豚汁の食材として、地域と連携し児童が栽培とコンニャクづくりに取り組む。

どの学習素材も常に次の見通しと目的をもって行われ、それぞれの場で工夫や課題解決のための取組が行われる。このように学びが循環し継続し、進化発展することが期待できる。そして、児童が地域でよりよい暮らし方を追究する取組が伝統文化や地域の人々と結びつき、豊かな学びとなっている。

「課題解決型のプロジェクト学習」であるが、児童の意識、助言者である教師の意識の高まりが豊かな学びの活動に高めるほどになっていない場面がある。これから解決すべき課題である。

また、旧態依然として作られた学習活動に児童を乗せ、到達する成果物を決めた上での学習活動となってしまうこともある。これを児童の主体的な学びへ転換させていくことが必要である。

### 【終わりに】

年々、児童の取組にねらいに即した充実した学びが見られるようになってきているので、これを学校全体に広げていくことが本校のさらなる目標であり、それは、未だ道半ばである。

今後さらに地域や保護者との連携を密にしながら地域と共に学び続ける学校の姿を充実させていきたい。

